

# 負けてなお残る充実感

球音

有情

試合後「負けて悔しい。でもチームはよく粘って一丸になれた」。赤く充血した目で胸を張った。(石井映四郎)

責任感の強い主将はネクストバッタースークルに入るときにはすでに泣いていた。延長戦になってからは毎回出塁を許すが無失点でしのいできた。  
しかし、延長十二回表、自らの失策でピンチを招き、その後3失点。その裏、2死三塁でまわってきた打席だった。  
「絶対3番、4番につなぐ」。気負いが強くなる中、灌漑拓也監督は「気持ちよく打ってきなさい」と声をかけた。  
勝利を信じて打席に入った。結果はショートゴロで、一塁に頭から滑り込んだがアウト。ピンチをしのぐたびに仲間と抱き合って喜んでいた主将は、泣き崩れ、仲間の肩を借りてロッカールームに入った。  
主将になった昨夏、3年生が引退して13人になった野球部は個性が強くバラバラだったという。どうやってチームを強くしていくか悩み抜いた。1月には過労で倒れ、学校から救急車で運ばれた。それでも「全力でやる」を胸にチームを引っ張った。



学習院 林直志主将(3年)

2010.7.15 産経新聞

最後に力尽きる  
①：2戦連続の延長戦のマウンド。学習院の瀬尾健太郎投手(3年)は最後に力尽きた。  
一球一球、丁寧に投げ分けるのが持ち味。4日の早稲田戦では、六回から登板し、5回を無失点に抑えた。この日も七回から登板。打たせて取る作戦がピタリとはまり、十一回まで一安打。十二回、先頭打者に四球を与えると、味方の失策も絡んで3点を失った。でも悔いはない。「あれが自分の投球。ベストは尽くせた」

東大会 =いずれも2回戦

立	志	舎	1	0	1	0	0	0	0	3	5
学	習	院	1	0	0	0	0	0	0	0	2

(延長12回)

2010.7.15 朝日新聞

2010.7.15 読売新聞

2010.7.15 毎日新聞



【立】志舎 打安点  
遊中五三二一投捕左二 振球併残  
9 4 3 1 12 4 6 10 4

【学】習院 打安点  
二左遊捕右中三投二 振球併残  
12 2 3 0 8 4 1 7

投手	水	回	12	安	7
大	塚	6	7		
瀬	尾	6	3		

困	高	昌	安
三	谷	島	西
柳	立	立	戸
	二	二	高
	学	学	学
	3	3	1
	審	判	林
	(球)	貴	泉
	(塁)	宇	佐
		美	泉
		常	田

【立志舎・学習院】四回裏学習院1死三塁 瀬尾のスクイズが決まり安西が生還して2点目 東京都新宿区の神宮球場で

## 12回の死闘 (延長十二回)

○：延長戦にもつれた立志舎―学習院は、十二回表に打線がつながった立志舎が3時間近い熱戦を制した。こんなに長く投げると思わなかった。しんどかったけど仲間を信じていた」という立志舎の富永健二投手(2年)は12回を完投。五回以降は三塁を踏ませず、足がつるハプニングのあった九回裏も3者凡退に抑えてみせた。今度のもっと三振をとると次の試合に向けて闘志満々。一方、十回表1死三塁のピンチを切り抜けるなど、しぶとさをみせた学習院の林直志主将(3年)は「勝てるリズムだった」と涙顔。昨年の主将就任後、チームをまとめ気苦労などから倒れたこともあったが「最高のチームだった。仲間を信じる素晴らしさを野球に教えてもらった」と話した。